

# 低山はいかい倶楽部 報告 2018年5月

5月度 低山はいかい「鶴脚山・馬頭刈山へのハイキング」実施報告

実施日：5月23日（水）

参加者：（主幹事）稲葉 力以下 12名

本文：

昼過ぎから小雨の予報であったが雨具必携で「はいかい」は実施することになった。

全員早めに駅に集合したので予定よりも一つ早いバスに乗車、茅倉の登山口に向かった。

そこで概要の説明を受け体操後 9:40 に登山を開始。よく手入れが行き届いているスギ・ヒノキの林に入るとすぐに急な登りになった。林の随所には野生化したお茶の木が生えている。杉の大きさから判断して 20～30 年前まではこの斜面一帯が茶畑だったことがうかがえる。登り始めから急登ではちょっときつい。

まもなく尾根道に入る。両側には白いコゴメウツギやマルバウツギ（別名〇ちゃんウツギ）の花が「はいかい」を明るく迎える。登るにつれてコアジサイが多くなる。白に蛍光色の青が薄く入り妖精のようで美しい。まさに天空へと続く花街道の様相だ。今の時季が一番美しいとの事。標高が高くなるにつれて植生が変化していくのを確認できる。途中一面のササ原が出現。そこは植生が貧弱、ササ以外はほとんど育っていない。ササには他の植生の生育を排除する要因があり多様性を失わせている。鹿の好物はササ、食した形跡もあった。ササの拡大侵食が自然に止まるには一斉に花が咲いて枯れるか、または鹿に食されて消滅するのを待つしかない。稜線に入ると落葉樹林帯になり植生が豊かになる。ヤマツツジの花びらを摘んで食べて見たが、酸っぱく美味しいとは言えない。昔の甘酸っぱい思い出が浮かぶ。

11:00 に鶴脚山(916m)に到着。雨が降りそうなので小休止してすぐに出発。足元には花が過ぎたササバギンランが……。突然森の中に「月の砂漠に……。キンとギンとの……」の歌声が響き渡った。声の主は？「はいかい」では常連の〇ちゃんだ。いつもハイテンションで賑やかだが脚力はローテンション、必ず健脚集団から遅れるが山登りを本当に楽しんでいるように見える。それにつられて某大学の校歌の合唱も流れてきた。これでは流石にクマも近寄れない。

11:30 に馬頭刈山(884m)に到着。その頃には小降りだった雨が本降りになり雨具を着けての昼食となった。頂上だけ木々に遮られて展望は良くない。食事も早々に切り上げ記念の集合写真を撮って泉澤尾根を下ることになった。後は登山口まで下るのみ。

林の中に入ると木の葉に遮られて雨がほとんど落ちてきていない。先ほど慌てて着けた雨具が暑くて邪魔になり始めた。途中の小休止時に不要となった雨具を脱ぎ身支度を整えた。その一角に棒を立てて囲った場所があった。下見の時にツルリンドウの小群生があったので踏まれないよう保護のために囲ったとの事。

下山路は楽と言われていたが意外と急だ。落葉に足を取られて滑りそうになることもあった。立派な階段も設置されていたが私の歩幅と階段高・踏み面とが合わない。足の踏ん張りが片寄る。時々替えていたが高尾の縦走路にある異様に立派な階段と比べると歩きやすい方だった。

1 時間ほど下って登山口に到着。途中ミョウガやお茶の木が見られた。ミョウガは人里以外の自然の野山にはほとんど自生していないとの事、その昔この辺りも広大な茶畑や野菜畑があったと推察される。

今の麓はほとんどスギ・ヒノキ林になっている。檜原村の気候はお茶栽培に適しているのも今でも細々

とお茶を栽培している所がある。その昔ここではのどかな茶摘みの光景が見られたかも知れない。

泉沢登山口に 12:40 に到着。まだ小雨が降っていた。約 10 分遅れて〇ちゃんグループが賑やかに無事到着。バス停に向かう途中貴布禰伊龍神社に立ち寄って御神体の岩を拝み、沢のキショウブと下見の時に見つけたハンショウヅルを見ながら「振り返り」での美味しいお酒を楽しみにし、和田向のバス停に下山した。

(報告者) 家 幸夫



よく整備された人工林



コアジサイに迎えられて！



鶴脚山



馬頭苜山その 1



馬頭苜山その 2